

# 農業生産工程管理（GAP）に取り組みましょう

## I GAP（Good Agricultural Practice）とは？

資料3-4

農業生産活動の持続性を確保するため、

① **食品安全・環境保全・労働安全に関する法令等を遵守するための点検項目を定め、**

### 食品安全（点検項目例）

農薬の取扱いや異物の混入などに  
気をつけよう



### 環境保全（点検項目例）

廃棄物は  
適切に処分しないとね



肥料は撒きすぎないように



### 労働安全（点検項目例）

事故を起こしてケガしないように  
作業環境の改善をしよう



作業に適した防護服を着よう



② **これらの実施、記録、点検、評価を繰り返しつつ生産工程の管理や改善を行う取組のことです。**

## II どうしてGAPを導入する必要があるの？

産地や農家が安定した経営を続けるためには、信頼性の確保、環境への配慮、事故防止等の対策が重要です。特に輸出への取組、東京オリンピック・パラリンピックへの食材供給等、海外のお客さんに対応するためには、**GAPへの取組**が必要となってきました。

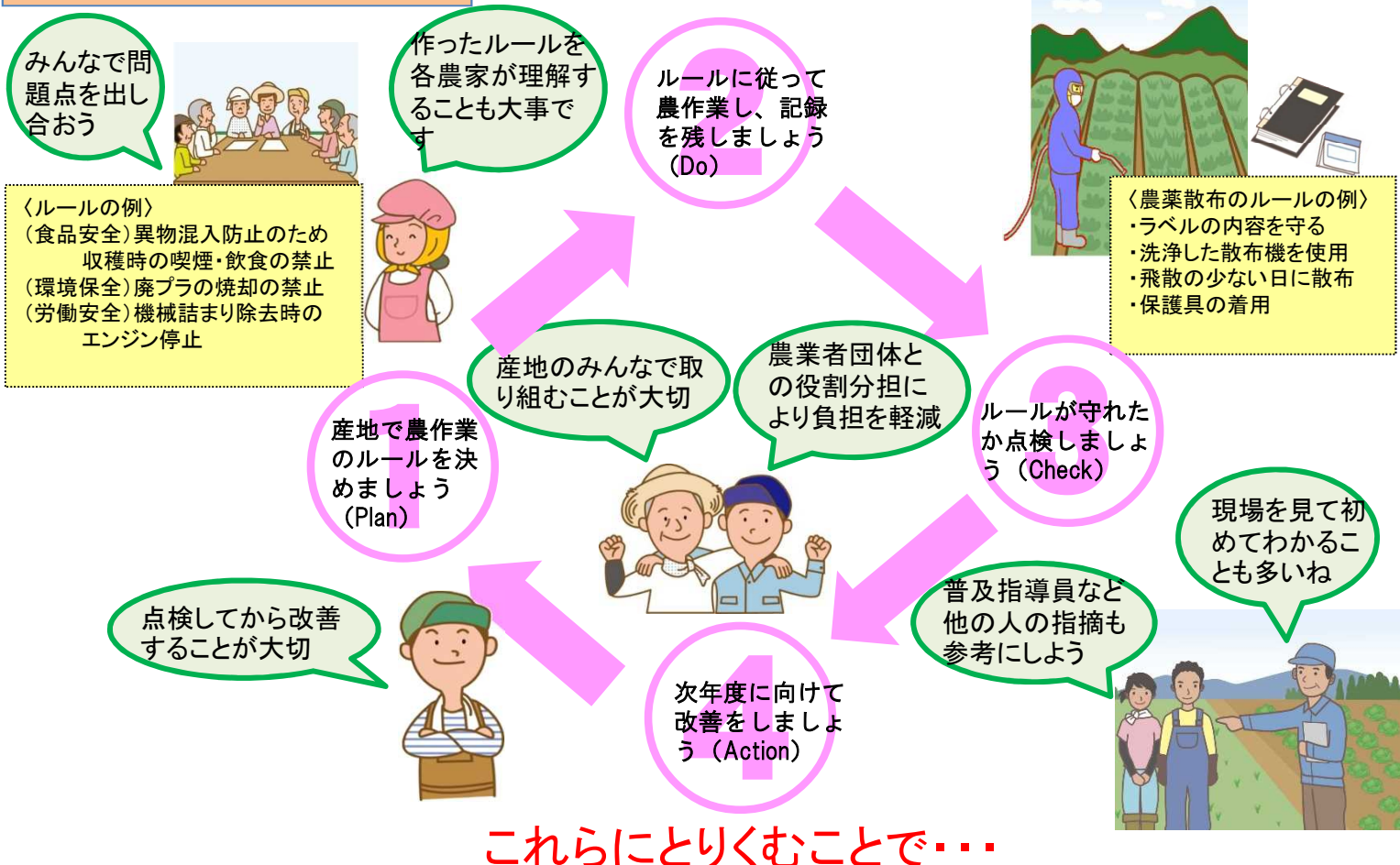
東京オリンピック・パラリンピックをきっかけとして、国内流通でも、すでに一部の大手流通チェーンでは**GAPの取組**を求める動きが出てきています

将来的には、GAPの取組は必須となる可能性

早いうちに備えよう！



### Ⅲ GAP実践の流れ



**農場への信用が大きくアップ**

**従業員の責任感や自主性が向上**

**海外や外国人向けの販売ができるようになる**

**取引先がGAPを要求しても今まで通り出荷できる**

### GAP 認証の取得を目指す産地を支援します

○ 国際水準GAP認証取得拡大支援事業(平成28年度補正予算)  
 GLOBALG.A.P.やJGAPの認証取得を目指す農業者、農地所有適格法人や産地等に対して、認証取得に必要な研修受講、認証審査等に係る費用を支援します。  
 補助率:定額 近々に(一社)全国農業改良普及支援協会より公募開始予定

### このパンフレットやGAPについてのお問い合わせ

農林水産省生産局 農業環境対策課 (生産工程管理班)  
 〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1  
 TEL 03-6744-7188  
 ホームページアドレス <http://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/index.html>

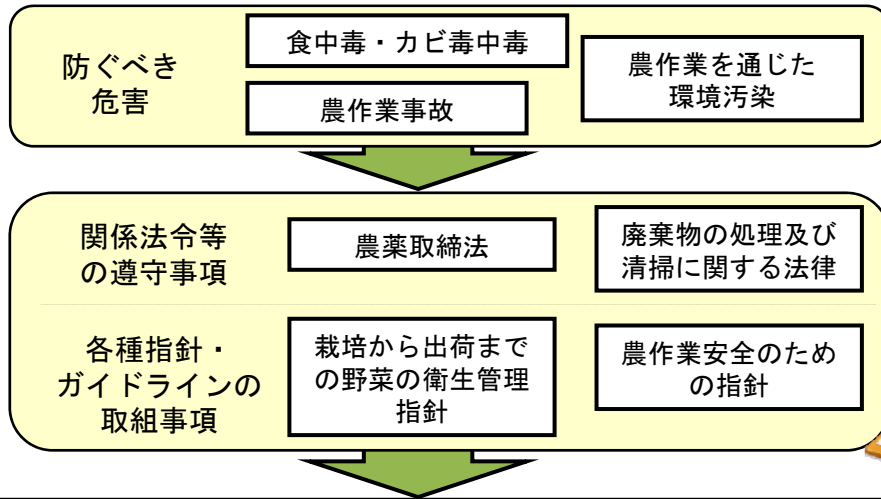
# 農業生産工程管理(GAP) の普及・拡大に向けて

平成29年1月  
**農林水産省**  
生産局 農業環境対策課

# 農業生産工程管理(GAP)とは

農業生産工程管理 (GAP: Good Agricultural Practice) とは、  
 農業生産活動の持続性を確保するため、食品安全、環境保全、労働安全に関する法令等を遵守するための点検項目を定め、その実施、記録、点検、評価を繰り返しつつ生産工程の管理や改善を行う取組のこと。

## 1 合意形成、体制作り

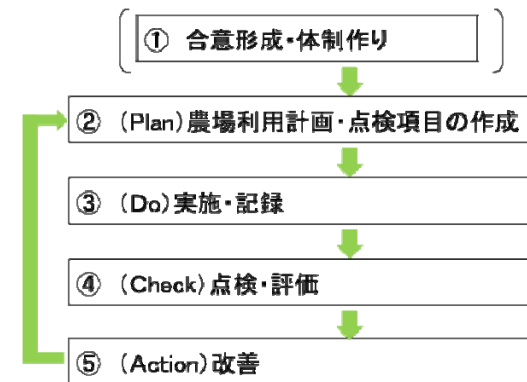


**食品安全・環境保全・労働安全**について実施すべき取組を明確化したものをGAPとして策定し、実施体制を構築

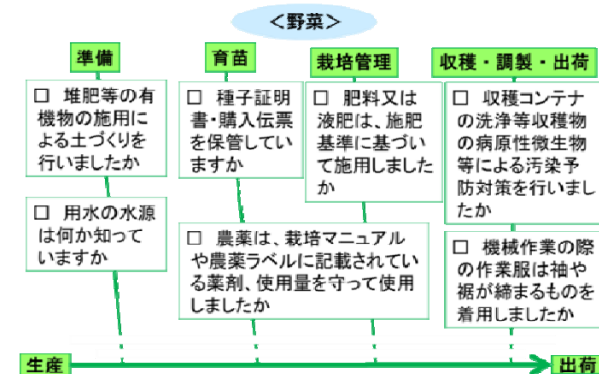
## GAP導入の効果

- ・ 農産物の病原微生物等による汚染の低減等を通じた食品の安全性向上
- ・ 農薬や肥料による環境負荷の低減等を通じた環境の保全
- ・ 農作業中の事故の回避等を通じた労働安全の確保
- ・ 土壌診断を踏まえた肥料の適正施用等を通じた資材コストの低減 等

## 2 産地におけるPDCAサイクルによるGAPの実施体制



## 3 実施・記録のイメージ



# 農業生産工程管理(GAP)の定義

機関・団体	「GAP」の定義
国連食糧農業機関(FAO)	(仮訳)GAPとは、 <b>農業生産の環境的、経済的及び社会的な持続性に向けた取組</b> であり、結果として安全で品質の良い食用及び非食用の農産物をもたらすものである。
農林水産省 : 農業生産工程管理(GAP)の共通基盤に関するガイドライン	農業生産工程管理(GAP: Good Agricultural Practice)とは、農業生産活動を行う上で必要な <b>関係法令等の内容に則して定められる点検項目</b> に沿って、農業生産活動の各工程の <b>正確な実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動</b> のこと。

# 様々なGAP

種類	運営主体	説明	ガイドライン 準拠状況※1	グローバル マーケット での活用状況
各都道府県のGAP	各都道府県	<ul style="list-style-type: none"> <li>各都道府県が独自に定めたGAP</li> <li>一部の都道府県で第三者による認証を実施</li> </ul>	一部 ○	×
JAグループのGAP	JA、経済連	<ul style="list-style-type: none"> <li>各JAが独自に定めて取り組むGAP</li> <li>一定の要件を満たすJAに対し、全農が認証システムを提供</li> </ul>	一部 ○	×
適正農業規範／農産 物品質保証システム	日本生活協同組合連 合会(産直事業委員会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生協の「産直」商品を主な対象としたGAPの基準</li> <li>生産者自身による点検と生協の二者点検を実施</li> </ul>	○	×
JGAP	(一財)日本GAP協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業者、JA、大手小売業等が参加して開発</li> <li>指導員を育成する仕組みをもつ</li> <li>第三者による認証を実施</li> </ul>	○	アジアの一部で 外資系飲料メー カーが原料茶葉 調達に活用
GLOBALG.A.P.	FoodPLUS GmbH(ドイ ツに本部を置く非営利組 織)	<ul style="list-style-type: none"> <li>欧州の流通小売の大手企業が主導して策定し生産者団体と調整して策定した取引要件としてのGAP</li> <li>第三者による認証を実施</li> </ul>	○	GFSI※2承認ス キーム(青果物 のみ)

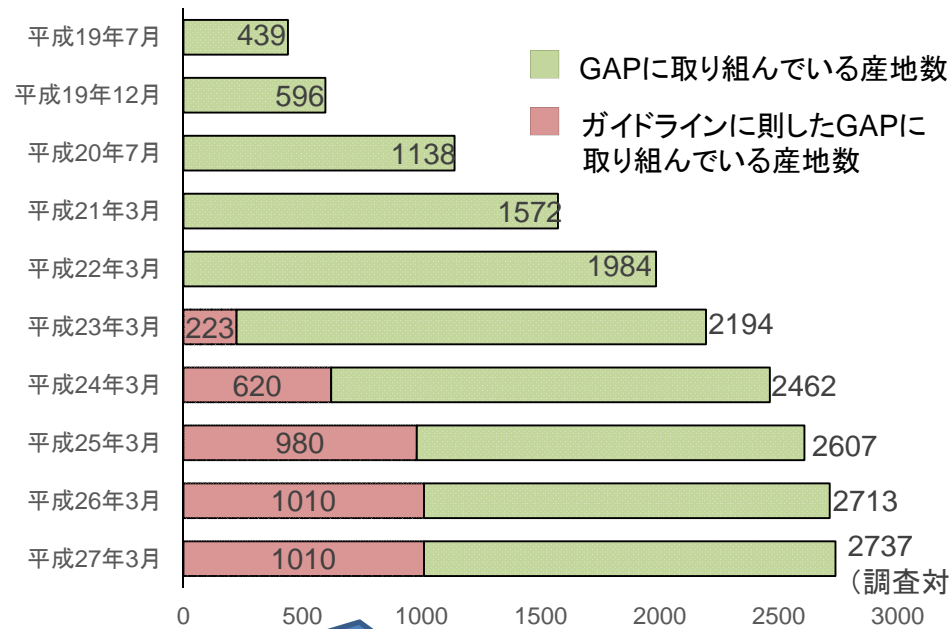
※1:農水省において策定した「農業生産工程管理(GAP)の共通基盤に関するガイドライン」(平成22年4月)に準拠したもの(一定水準以上のGAPの普及を図るため、我が国の農業生産活動において奨励すべき取組を共通基盤として明確化)。

※2:GFSI(Global Food Safety Initiative)とは、2000年にグローバルに展開する小売業者・食品製造業者等が集まり、食品安全の向上と消費者の信頼強化に向け発足した団体。食品安全リスクの低減とコストの最適化を目指し、多数ある食品安全認証スキームの標準化等の取組を行っている。



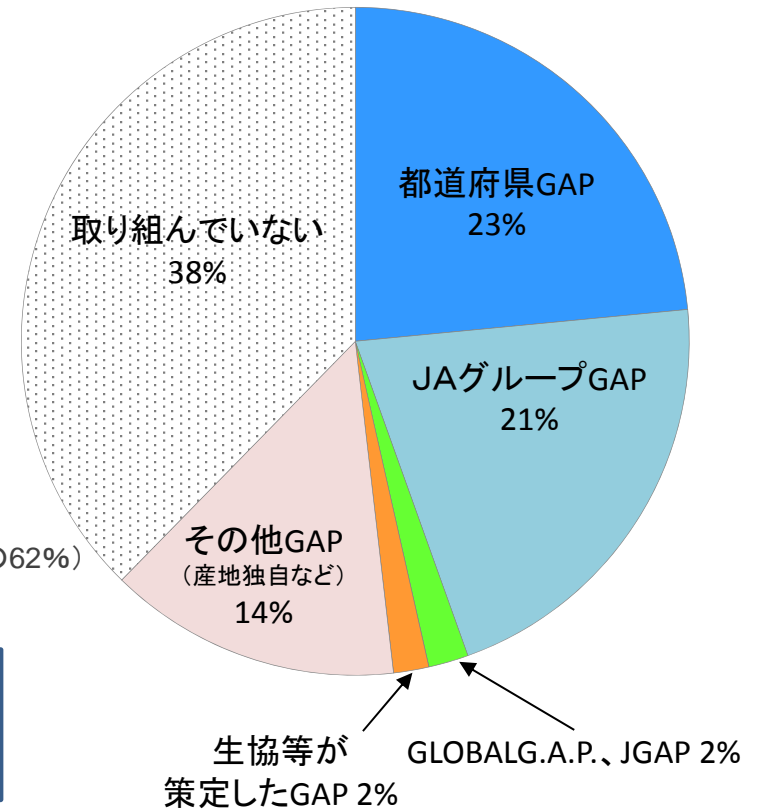
# GAPの取組状況

## ① 導入産地数の推移



- 調査対象(4,391産地)<sup>※1</sup>の約6割がGAPに取り組み
- ガイドラインに則したGAP<sup>※2</sup>に取り組んでいる産地は、調査対象の23%(1,010産地)

## ② GAPの種類別導入状況



農林水産省調べ(平成27年3月末現在)

(※1)調査対象は、野菜、米、麦、果樹、大豆の産地強化計画等を作成している産地等(平成27年3月 4,391産地)。(平成23年3月の結果は福島県を除く。)

(※2)ガイドラインに則したGAPは、「農業生産工程管理(GAP)の共通基盤に関するガイドライン」(平成22年3月 農林水産省生産局)における法令上の義務項目を全て満たし、かつ法令上の義務以外の項目の8割以上の項目を満たしているもの。

# JGAP導入による経営改善効果

- 「販売先への信頼」が改善された→約5割
- 「品質の向上」が図られた→約5割

- 「資材の不良在庫」が削減→約5割
- 「従業員の責任感」や「自主性」が向上→約7割







































